

国内経済要録

◇アメリカ合衆国通貨表示外国為替引当貸付の利子歩合変更

ニューヨークにおける市中金利の上昇に伴い、本行はアメリカ合衆国通貨表示の手形を引当とする外国為替引当貸付の利子歩合を次の通り変更した。

(実施日)	(改訂前)	(改訂後)
5月23日	日歩 8厘	日歩 9厘

◇米ドル建輸入ユーザンス金利の変更

ニューヨークにおける市中金利の上昇に伴い、本邦側甲種外国為替公認銀行は、米ドル建輸入ユーザンス金利を次の通り2回にわたって変更した。

(実施日)	(改訂前)	(改訂後)
5月1日	年利 5.625%以上	年利 5.75%以上
5月25日	" 5.75%以上	" 5.875%以上

◇輸入担保率の引下げ

政府は、国際収支の好調を背景として、外国為替管理法改正専門委員会の決定した方針に基づき、簡素化を目的として次の通り輸入担保率の引下げおよび担保種類に関する制限を緩和し、6月8日から実施した。

- (1) 外貨割当制物資については担保率をり%とする(従来1~5%)。

(2) 自動承認制物資のうち南西諸島物資の輸入については現行通り担保率を0.1%とし、その他は一律に1%とする(従来1~5%)。

(3) 不要不急物資の輸入担保は従来現金に限定されていたが、これを改めすべての物資について現金に限定しないこととした。

◇昭和33年度下期全国銀行決算状況

全国銀行の33年度下期償却前利益は512億円と前期比15億円、3.14%増(前期2.49%増)と若干好転した。

これは、預金金利が据置かれた反面貸出金利は2度にわたって引き下げられ、利鞘が期中かなりの縮小を余儀なくされたが、他方、預金の好調から運用資金量が大幅に増大し、上記利鞘の縮小をカバーしたことが主因である。

業態別では都市銀行の伸び悩みに対して、地方銀行はやや好転を示している。

なお、大蔵省指導関係指標(3月号要録参照)は次の通り、預貸率は改善、經常収支率はわずかながら悪化した。

	(単位・%)			
	都市銀行		地方銀行	
	当期	前期	当期	前期
預貸率	101.40	105.40	82.54	83.04
經常収支率	82.58	82.38	77.31	76.43

33年度下期全国銀行収益状況

(単位・億円)

区 分	全 国 銀 行			都 市 銀 行			地 方 銀 行		
	金 額	前 期 比 増減額(率)	前 期 対 前々期 比増減率	金 額	前 期 比 増減額(率)	前 期 対 前々期 比増減率	金 額	前 期 比 増減額(率)	前 期 対 前々期 比増減率
1.償 却 前 利 益	512	15(3.14)	2.49	242	0.3(0.13)	1.95	203	9(5.02)	2.29
2.公 表 利 益	264	8(3.20)	2.11	113	1(1.53)	- 0.16	116	3(2.97)	3.08
3.諸利率およびコスト	(年利率)	(前 期 比 増 減)		(年利率)	(前 期 比 増 減)		(年利率)	(前 期 比 増 減)	
預 金 利 率	※4.471	※ 0.022		4.219	0.018		4.409	0.003	
経 費 率	2.445	- 0.168		2.475	- 0.171		2.504	- 0.168	
預 金 コ ス ト	※6.917	※ - 0.146		6.694	- 0.153		6.913	- 0.164	
預金借入金コスト(A)	※7.023	※ - 0.281		6.888	- 0.332		6.928	- 0.171	
貸出証券平均利率(B)	8.077	- 0.318		7.877	- 0.372		8.307	- 0.288	
利 鞘 (B-A)	1.054	- 0.037		0.989	- 0.040		1.379	- 0.117	

(注) 1. 都市銀行の諸利率コストの計数には東銀を含まない。 2. ※印は債券を含む。